

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 高松西部の巨石墳を訪ねる

講師 今岡重夫（勝賀城跡保存会事務局長）

平成21年10月25日（日）

共催 高松市歴史民俗協会
高松市教育委員会

1 鬼無町

鬼無町は昭和31年（1956年）9月に上笠居村が周辺15町村とともに高松市に合併し誕生しました。平安鎌倉時代には笠居郷、江戸時代には笠居郷笠居村に属していました。

勝賀山の麓に開け、今岡、神高、古宮、平木古墳群等が分布しています。また中世の豪族香西氏の館佐料城跡、鬼無城跡、勝賀山頂には勝賀城跡等の史跡が存在しています。寛永10年（1633年）の讃岐国絵図には毛無、「南海通記」には鬼無村が見えます。藩政時代には丸亀街道が通り、根来寺から一宮寺への遍路道があり、燈籠や丁石（注1）が各所にあります。県道衣掛郷東線に沿って古い町並みがあり、盆栽とみかんで有名なこの町は桃太郎伝説の町でもあります。

（注1）丁石 ちやういし：丁数が刻まれているので、丁石と呼ばれています。「丁」は、「町」とも書き、日本固有の距離の単位で、土



地面積の単位である「町」に由来すると言われています。1丁は、メートル法に換算すると約109mになります。香川県下において丁石は、札所と札所を結ぶ道沿いに置かれています。遍路道の丁石は、舟形の石に地蔵菩薩と丁数を刻む形が一般的です。

2 鬼無町内の主な古墳

沢池西古墳・かしが谷1号墳・かしが谷2号墳（石棺復元）・かしが谷3号墳・かしが谷4号墳・虎池西古墳・善師垣古墳・貴船池下古墳・今岡古墳（県史跡）・平木1号墳・平木2号墳・平木3号墳・平木4号墳（消滅）・山口山頂古墳・神高池西古墳・神高池北西古墳・神高池南西1号墳・神高池南西2号墳・鬼無大塚古墳・山野塚古墳・空家古墳・古宮古墳（高松市史跡）・こめ塚古墳・鬼塚古墳・相越古墳・衣掛古墳・袋山古墳・山の神1号墳・山口龍神社古墳（2004年 遺跡分布台帳の古墳・塚を抜粋・高松市教委）

香川県内古墳 石室の大きさ

単位 c m

N O	名称	所在地	玄室の長さ	玄室の幅	玄室の高さ
1	椀袋塚古墳	観音寺市大野原町	670	368	350
2	醍醐2号墳	坂出市西庄町	670	255	280
3	古宮古墳	高松市鬼無町	640	200	320
4	平塚古墳	観音寺市大野原町	620	291	245
5	醍醐3号墳	坂出市西庄町	600	257	266
6	新宮古墳	坂出市府中町	555	250	231
7	醍醐7号墳	坂出市西庄町	550	215	255
8	角塚古墳	観音寺市大野原町	540	250	230
9	山野塚古墳	高松市鬼無町	540	200	280
10	鬼無大塚古墳	高松市鬼無町	540	230	260
11	平木1号墳	高松市鬼無町	540	200	240

ふるみやこふん

【古宮古墳】（市指定史跡） 昭和63年3月4日

高松西高校南の谷間にあり、直径30m近くの円墳と考えられ、県内でも大型に属する古墳時代後期の横穴式石室墳です。6世紀末から7世紀前半にかけて、全国的に大規模な石材を使った横穴式石室をもつ墳墓が築かれました。石室は遺体を葬る^{げんしつ}玄室と玄室に至る^{せんどう}羨道に分けられています。

古宮古墳の羨道（幅1.58m）は破壊されていますが、玄門（幅1.46m）から奥の玄室（幅2.03×2.14m、長さ6.41m、高さ3.24m）は非常に良好に残っています。

昭和59年、香川大学の調査で石室の規模がわかり、多くの副葬品が発見されました。すでに盗掘を受けていましたが、須恵器・土師器・金環・ガラス玉と共に、鉄地金銅張鞍金具の破片や銅製の刀装具が出土し、石室の規模や出土遺物から被葬者は相当の権力を持つていたとみられます。周辺に散在する横穴式石室墳の中では代表格です。



古宮古墳
3

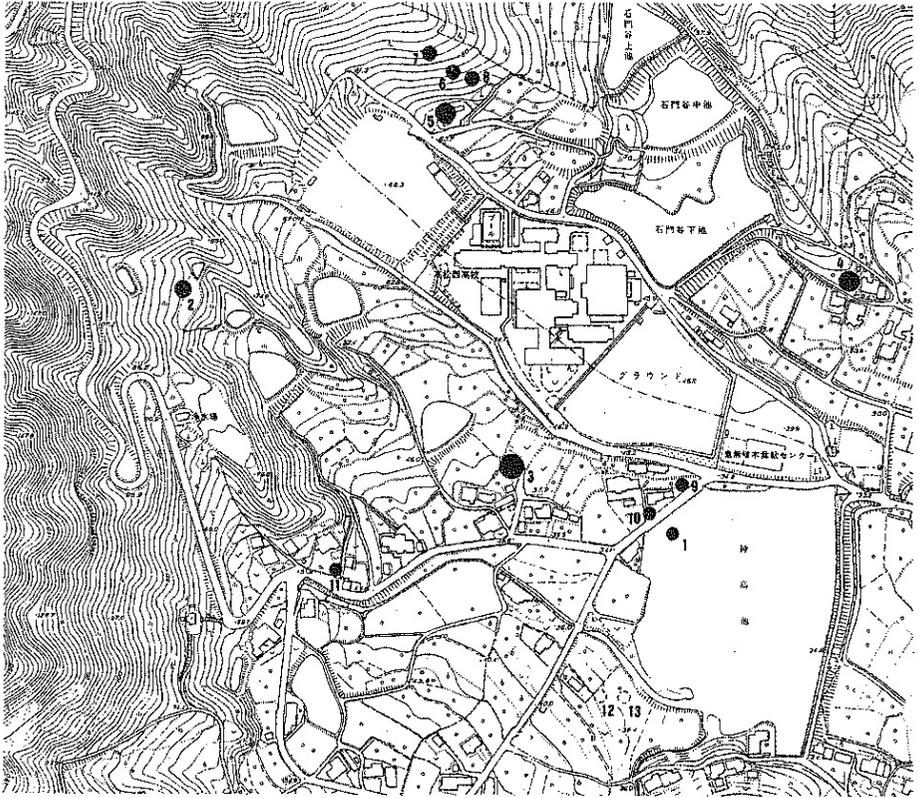
ひらぎ1号墳
【平木1号墳】

平木古墳群は高松西高等学校の丘陵に4基あり、7世紀初め（古墳時代終頃）に造られた円墳です。高松西校の校内に「平木1号墳」があります。山側第二体育館の隣にあり、高松西高の通用門側の道（盆栽センターへ行く方）を上がっていくと見えます。平木1号墳は、4基の古墳からなる平木古墳群の1基で、直径18・2m、内部には全長約11mの巨大な横穴式石室が築かれています。昭和58年に香川大学、平成元年に高松市教育委員会が発掘調査を行った際、耳環・鉄斧・須恵器・土師器・釘・須恵製陶棺片などが出土しました。

この平木1号墳は当時この地一帯を支配していた豪族とその家族が埋葬されていたと考えられています。高松西高周辺は古墳の密集地域で、古宮古墳・鬼無大塚古墳・空家古墳・こめ塚古墳など香川の代表的な古墳が多くあります。



平木1号墳



- | | | | |
|-------------|----------|---------|-------------|
| 1 神高池北西古墳 | 2 山野塚古墳 | 3 古宮古墳 | 4 鬼無大塚古墳 |
| 5 平木1号墳 | 6 平木2号墳 | 7 平木3号墳 | 8 平木4号墳 |
| 9 神高池西古墳 | 10 こめ塚古墳 | 11 空家古墳 | 12 神高池南西1号墳 |
| 13 神高池南西2号墳 | | | |

神 高 古 墳 群 分 布 図

【今岡古墳】（県指定史跡）昭和32年4月20

日

勝賀山の東麓の尾根に位置した前方後円墳で、古墳時代中期（5世紀頃）に造られたと考えられています。高松平野におけるこの時期の古墳としては最大級の大きさです。この古墳の特色は、埴輪（はにわ）が多く使われていることがあげられ、筒型をした一般的な円筒埴輪はもちろん、家形や蓋等の形象埴輪も多く採集されています。翡翠ひすいの勾玉や、管玉、国産の鏡（一仙五獣鏡）などが出土しています。

また、古墳には河原石が散乱しており、古墳全体を石で敷きつめる葺石の名残と考えられています。

昭和39年（1964）には、前方部から、



今 岡 古 墳

全国的にも類例を見ない組合式陶棺が発掘され、若い女性とみられる人骨とともに、鏡や玉類が出土しました。陶棺は現在香川県立ミュージアムに復元展示されています。東の方に立地する石清尾山古墳群と比べ、盛り土で造られ、多量の埴輪が立てられた今岡古墳は、当時の中心地であった近畿地方の強い影響を受けていると考えられています。高松周辺では最も新しい前方後円墳のひとつと考えられています。

【神高池周辺の古墳群】

高松西校南側斜面に神高池西古墳、こめ塚古墳、神高池北西古墳があります。神高池西古墳、こめ塚古墳は市道の横に巨石で造られた横穴式石室が見られます。神高池北西古墳は現在、神高池の底に水没していますが、昭和63年（1988年）の高松市教委による発掘調査の結果、石室の基礎石の一部だけが確認されています。

3 佐料城跡・鬼無城跡

佐料城跡は佐料公会堂の北側に位置し、勝賀城と同じく、香西氏の初代資村が築城したとされています。天正5年（1577年）に18代香西佳清が藤尾城に移り住むまで香西氏代々の居館でした。鬼無城跡は袋山山上に位置し、香西氏の武将鬼無兵庫が守ったとされています。国分寺町・檀紙・御厩方面が眼下にあり、この方面の監視には最高の防御地

点と考えられます。

4 勝賀城跡（高松市史跡） 昭和55年8月6日

鬼無町是竹・香西西町・植松町・中山町にまたがる勝賀山（標高364m）の山頂に位置し、鎌倉時代から戦国時代の約360年間、笠居郷を本拠に活躍した香西氏歴代の城です。廃城の年代は不明ですが、香西氏が長宗我部元親に属した後、天正13年（1585年）の豊臣秀吉の四国平定に屈した前後と考えられます。発掘調査の結果、香川県を代表する中世山城であることが判明し、昭和55年（1980年）高松市の史跡に指定されました。

5 遍路道

旧国道を横切り、踏切を渡ると安徳の集落に入ります。

四辻には道標があり、「これよ里一のみや」と刻まれています。



道 標

道を進むと左側に地藏堂があります。二間四方の小さなお堂ですが、三方が開放しになる古い形式のお堂で、堂の垂木たるきに角塔婆かくとうば（角材の卒塔婆）を使用して建てられた、あまり例を見ない建物です。堂の前を東へ進むと本津川へ出ます。永代橋が架かっており、川向

こうは飯田町です。

橋の袂に小さなお堂があり、中に「あごなし地蔵」と呼ばれる地蔵尊が祀られています。なかなか整った顔をしたお地蔵様で、歯痛にご利益があるそうです。

6 桃太郎伝説

熊野権現桃太郎神社（祭神 紀州三所権現の分霊と稚武彦命）は、昔から「権現さん」の愛称で親しまれ、同時に桃太郎の鬼退治に関する伝承も伝えられていました。昭和の初めごろ、橋本仙太郎（注2）が

現地をくまなく調査研究して『童話「桃太郎」の発祥地は讃岐の鬼無』との説を昭和5年（1930年）9月に地元新聞「四国民報」（現四国新聞）に発表しました。

（注2）橋本仙太郎（1890年〜1940年 高松市中間町出身）

香川師範卒業後、大正3年（1914年）上笠居小学校の教諭時代、鬼無駅プラットホームで大隈重信が訓示（注3）した、鬼無の地名への感銘に端を発し、自分の半生をかけ『さぬき桃太郎伝説』ゆかりの地を探しました。昭和5年に、女木島洞窟を発見し、



地 蔵 堂

洞窟を鬼ヶ島洞窟として桃太郎伝説とむすびつけ、「童話桃太郎」の発祥地は讃岐の鬼無」と発表しました。

(注3) 大隈重信の訓示

「此の駅名は鬼無(おになし)かと思へば鬼無(きなし)・・・仲々面白い地名である。村民諸氏は個人といはず、団体といはず、皆共にどうか村の名のそのやうに、心の中に鬼を置かない様に修養に務めて極樂のやうな村とし邦家の為め奮闘せられ度い云々。」

7 鬼無の盆栽

植木鉢の中に自然を映し出す盆栽は、文化年間(1804〜18年)に始まりました。鬼無町の土地が砂質で、水はけがよく植木や盆栽栽培に適していたようです。

江戸後期文化年間に、接ぎ木の名人高橋南程(周輔)より学んだ鬼無半山(甚三郎)が盆栽植木の技術を習得し、幕末から明治の初めにかけて、苦心の末、成功して生れたものです。明治の中ごろになって、品質を改良し、良質の苗木を作り上げ、渡辺半太郎の優れた経営感覚で宣伝販売にも力を入れ、国内はもちろん、朝鮮半島、



満州にまで販路を拡大しました。盆栽のすぐれた技術を先人から受け継ぎ、改良を重ねた結果、国分寺とともに日本一の産地に成長しました。今では松盆栽（錦松・黒松・五葉松など）の約80パーセントが生産され、海外へも盛んに輸出されて、「BONSAI」と名前もそのままに人気が高まっています。



渡辺半太郎の功績
を記した碑



鬼無盆栽センターにあ
る顕彰碑

8 鬼無稚児桜 きなしちひごべいじ

「鬼無稚児桜」は菊桜（八重桜）の突然変異種で、一つの花に約200枚の花弁をつける中輪咲きが特徴です。「桜守」と呼ばれた京都の造園家・佐野藤右衛門が昭和初期、鬼無町で原木を発見し、「稚児桜」と名付けました。紅色のつぼみが開花するにしたがって、花弁の色は薄く淡くなっていきます。花柄が長く垂れ下がり、めしべは葉化しています。

約60年前に原木が枯れてしまった「鬼無稚児桜」の純系が、独立行政法人森林総合研究所・多摩森林科学園（東京都八王子市）のサクラ保存林に、「標本木」として保存されていることがわかりました。平成19年に標本木から穂木を取り寄せ、住民の有志が

約1年がかりで高さ約2メートルの苗木に育て、よみがえらせました。



鬼無稚児桜

【参考文献】

『神高古墳群―神高池北西古墳』高松市埋蔵文化財調査

報告第82集 高松市教育委員会 2005年3月

『ふるさと鬼無』鬼無町誌編集委員会 2007年6月30日

『わが町の文化財探訪』高松市文化財保護協会 2007年3月31日

『リーフレット 育てよう鬼無町の鬼無稚児桜』鬼無稚児桜を育てる会

『棕の木古墳報告書』長尾町教育委員会 1989年

『観音寺市内遺跡詳細分布調査報告書』観音寺市教育委員会 2008年3月